

脳卒中リハビリテーションに関する韓国の標準診療ガイドライン 2016  
(大韓脳神経リハビリテーション学会) 概要

カトリック大学校 富川聖母病院  
リハビリテーション医学科 Geun-Young Park

## 序論

臨床診療ガイドライン(clinical practice guideline, CPG)は、科学的根拠に基づく診療行為を提示し、医師の判断に役立てるために開発されたものであり、多くの国々で様々な疾患を対象にそれぞれの医療の現場に合わせて開発し発表されている。脳血管疾患は、悪性腫瘍、心臓疾患と共に韓国の3大死亡原因の一つであり、生存者にとっても深刻な障害をもたらす疾患である。本診療ガイドラインの目的は、急性期から慢性期に至る脳卒中患者のリハビリの過程において科学的かつ客観的な根拠に基づいた診療ガイドラインを提示することで、脳卒中患者のリハビリを担当する医療スタッフへ必要な情報を提供するものであり、その根拠と実際に行われる医療との違いだけでなく医師および病院間の治療の差を減らすため開発された。大韓脳神経リハビリテーション学会では、2006年から脳卒中リハビリテーションの診療ガイドラインに関する研究が始められ、2009年“脳卒中リハビリテーションに関する韓国型標準診療ガイドライン”の第一版が発刊され、2012年には改訂版の第二版が、2016年には第三版が発刊された。

## 方法

診療ガイドラインの開発者は、執筆者と諮問委員会で構成される。執筆者は19校の大学および4カ所の病院からリハビリテーション医学科の専門医42名が参加して活動を行い、諮問委員会は他科の専門医および治療士などの4名が参加して意見交換を行った。

本診療ガイドライン第三版は、すでに発刊されている外国の最新診療ガイドラインを参照した。第二版の診療ガイドライン以降に発刊された文献を調査した結果、スコットランドの臨床診療ガイドラインの様式に合わせ各項目の勧告水準および証拠水準を最新化し、最終的な合意はノミナル・グループ・テクニック(Nominal Group Technique)を利用して草案を作成した研究者から根拠に対する説明を聞いたのちに質疑応答を経て投票が行われた。その投票を通じて勧告文を導き出し根拠水準および勧告水準を決定し、韓国の医療の現状に合わせて修正が行われたのち完成した。

## 標準診療ガイドライン

診療ガイドラインは全4章で構成されており、その内容は次の通りである。第1章 脳卒中リハビリテーション総論、第2章 脳卒中の各症状に対するリハビリ、第3章 社会復帰を目的としたリハビリ、第4章 脳卒中リハビリテーションの新技术法。

総論にあたる第1章は、脳卒中リハビリテーションの構成および開始時期、脳卒中リハビリの標準評価、リハビリテーションの強度、リハビリテーションの目標設定、脳卒中患者教育についての内容が含まれており、最も大部分を占める第2章は、運動機能に対するリハビリ、感覚障害に対するリハビリ、嚥下障害、排尿および排便評価と訓練、コミュニケーション障害の評価とリハビリ、脳卒中急性期の認知機能評価および治療、脳卒中における空間無視の評価および治療、脳卒中後のうつ病、脳卒中後の合併症の予防および治療についての内容などで構成されている。第3章は社会復帰に関連する内容として退院計画、退院後のリハビリ、運転、余暇活動、職場復帰などの内容が含まれている。第4章は脳卒中リハビリテーションの新技术法に関する内容で、経頭蓋直流電気刺激に対する検討である。

## 結論

本診療ガイドラインは、脳卒中患者のリハビリテーションに対する標準診療ガイドラインを最新の医療水準に合わせて改定することで、韓国における脳卒中患者のリハビリテーションに正しい基準を提供することができるであろう。

## 参考文献

脳卒中リハビリテーションに関する韓国型標準診療ガイドライン 2016 要約本. 大韓脳神経リハビリテーション学会  
脳卒中リハビリテーションに関する韓国型標準診療ガイドライン 2012. 大韓脳神経リハビリテーション学会